

議会だより



放課後子ども教室 葉っぱスタンプ作り

特集 町土地開発公社（宅地分譲）	2～3
6月定例会	4
臨時議会（第1回、第2回）	4～7
委員会による町政の調査	8～9
平成24年度予算の行政効果を現地調査	10～11
ピックアップ平成25年度予算	12～13
追跡調査「あの質問はどうなった」	14～15
一般質問「ここが聞きたい」3氏が町政を問う	16～18
議会及び議員の活動報告	19
元気なスポーツ少年団（FCキッカーズ）・地域の話（地域おこし協力隊）	20

特集

町土地開発公社

平成25年第2回定例会で「厚真町土地開発公社」の業務報告があった。

町土地開発公社は、地域の秩序ある整備を図るために必要な公有地となるべき土地等の取得及び造成その他の管理等を行わせるため、町が設立した法人である（公有地の拡大の推進に関する法律第10条第1項）。

昭和47年に議会の議決を経て定款を定め、北海道知事の認可を受けて設立された。

資本金は町が全額出資している。

業務は、町の要請により、公有地や道路建設などの公共事業用地取得、都市計画法による宅地分譲用地の取得、企業などの誘致のための土地を民間から買い上げ管理し処分等を行っている。

役員は、理事6人（内、理事長1人）、監事2人で構成されている。

平成24年度決算状況、及び公社所有地の分譲状況（6月30日現在）は次の通りである。

損益計算書

（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

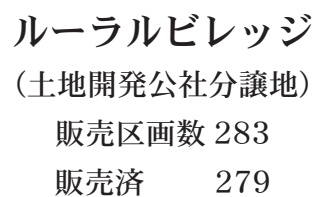
（単位：円）

I 事業収益		
1 公有地取得事業収益	0	
2 土地造成事業収益	8,300,200	8,300,200
II 事業原価		
1 公有地取得事業原価		
2 土地造成事業原価	7,712,037	7,712,037
事業総利益		588,163
III 販売費及び一般管理費		
1 販売費及び一般管理費		1,572,276
事業利益（△事業損失）		△ 984,113
IV 事業外収益		
1 受取利息	6,236	
2 雑収益	1,579,121	1,585,357
V 事業外費用		
1 支払利息		
(1) 短期借入金利息	0	
(2) 長期借入金利息	20,545	20,545
経常利益（△経常損失）		580,699
VI 特別利益		
1 前期損益修正益		
VII 特別損失		
1 土地評価損	△ 1,712,400	
2 固定資産除却損		△ 1,712,400
当期純利益（△当期純損失）		△ 1,131,701

貸借対照表

平成25年3月31日（単位：円）

（資産の部）			
I 流動資産			
1 現金及び預金	28,276,259		
2 事業未収金	0		
3 公有用地	27,137,353		
4 完成土地等	53,628,862		
5 開発中土地	51,940,462		
流動資産合計			160,982,936
II 固定資産			
1 有形固定資産			
(1) 構築物	1,066,650		
減価償却累計額	674,670	391,980	
2 無形固定資産			
(1) 電話加入権	76,440		
固定資産合計			468,420
資産合計			161,451,356
（負債の部）			
I 流動負債			
1 短期借入金	0		
流動負債合計			0
II 固定負債			
1 長期借入金	79,077,815		
固定負債合計			79,077,815
負債合計			79,077,815
（資本の部）			
I 資本金			
1 基本財産	10,000,000		
資本金合計			10,000,000
II 準備金			
1 前期繰越準備金	73,505,242		
2 当期純利益（△当期純損失）	△ 1,131,701		
準備金合計			72,373,541
資本合計			82,373,541
負債・資本合計			161,451,356



(土地開発公社分譲地)

販売区画数 83

販売済 75



(町分譲地)

販売区画数 85 (最終 111)

販売済 20

※フォーラムビレッジは、町が直接分譲しています。

〔濟〕 売約濟

 住宅あり



第2回定例会

平成25年第2回定例会は、6月10日に開催され、議案15件、承認1件、報告6件を審議した。

一般会計補正予算

全員賛成で可決

新ビジネス創出

地域の食材を活用した特産品や地域メニューの開発等を行う地域おこし協力隊1人の、報償及び活動助成。 257万円

主な補正予算

高丘本線道路整備

高丘本線の舗装をする。 270万円

IRU事業

豊沢、東和地区のブロードバンド環境を整備する。 471万円

こども園・へき地保育所運営事業

こども園つみき、宮の森保育園、さくら保育園の備品及び図書を購入する。 136万円

風しん緊急対策予防接種費用助成

64万円

町PPP協定対策連絡会議活動補助

94万円

・通学費用助成

通学費用の助成率を2分の1から4分の3へ引き上げる。

スクールバス運行

臨時の運転手を1人採用する。

専決事項の報告

一般会計補正予算

寄附金100万円を受け、町エンゼル基金へ全額繰り入れた。

第1回臨時会

平成25年第1回臨時会は、4月12日に開催され、議案1件、意見書案1件を審議した。

意見書案の採択

TPP交渉参加断固反対に関する意見書を、提出者木戸嘉則議員、賛成者吉岡茂樹議員、大捕孝吉議員、下司義之議員、木本清登議員で提出した。

工事請負契約の締結

穀類乾燥調製貯蔵施設設備機器更新工事請負契約の締結

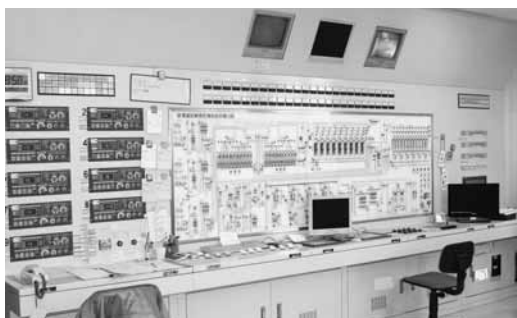
全員賛成で可決

内容は、TPP交渉からの脱退、多様な農業の共存を明確に位置付けた貿易ルールの確立である。

全員賛成で可決

提出先

内閣総理大臣
農林水産大臣
外務大臣
経済産業大臣

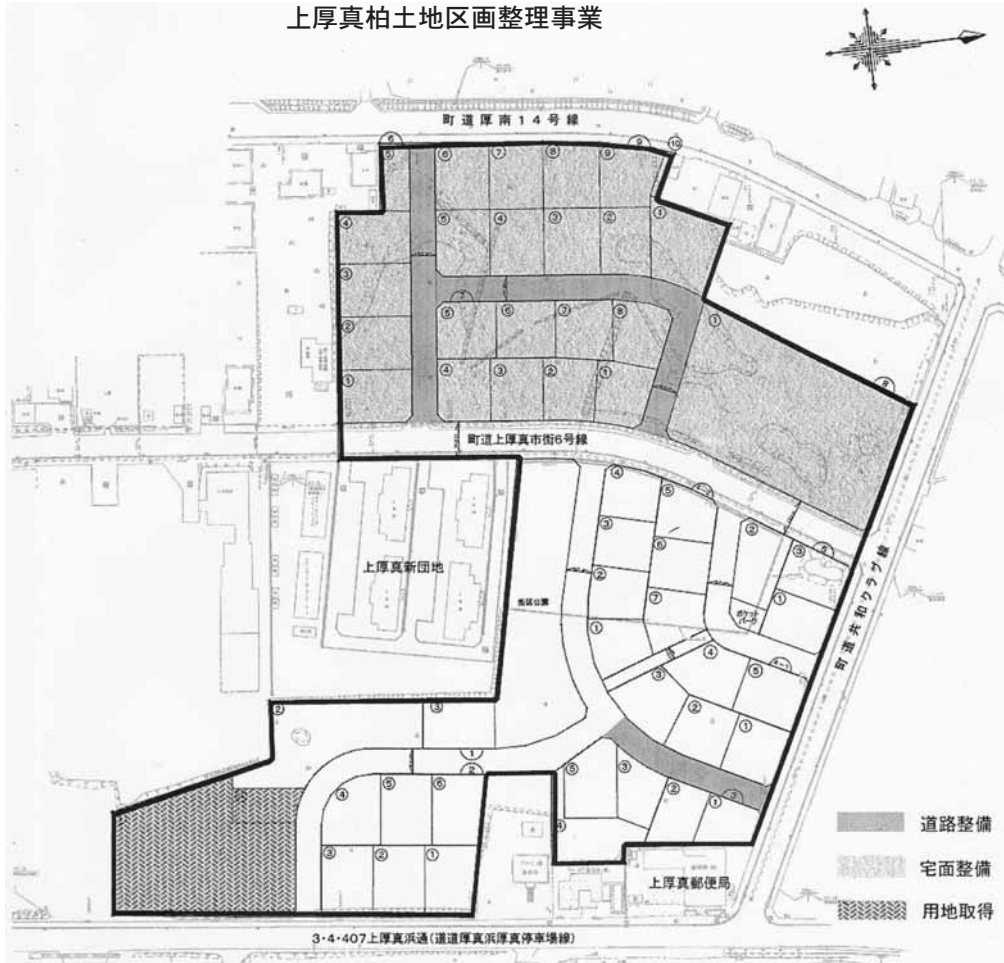


行政報告

低気圧による農業施設等への被害について

4月7日に道内を襲った発達した低気圧による暴風雨により、町内ではメロンやホウレンソウの育苗ハウス5棟の被害があったが、幸いにも苗そのものには影響がない状況であった。

上厚真柏土地区画整理事業



第2回臨時会

平成25年第2回臨時会は、6月28日に開催され、議案8件、報告1件を審議した。

一般会計補正予算

主な補正予算

上厚真市街地宅地整備事業
上厚真柏土の区画整理を行う。
6388万円

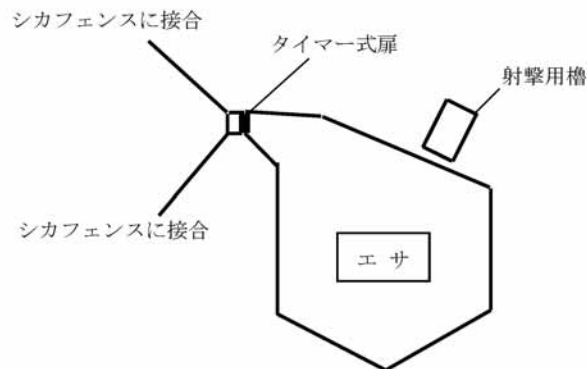
子育て支援住宅建設事業
子育て支援住宅建設用地として、上厚真柏土地区画整理区域内の土地を購入する。
1410万円

情報発信事業
「あつまるくん」の着ぐるみを作成する。
80万円

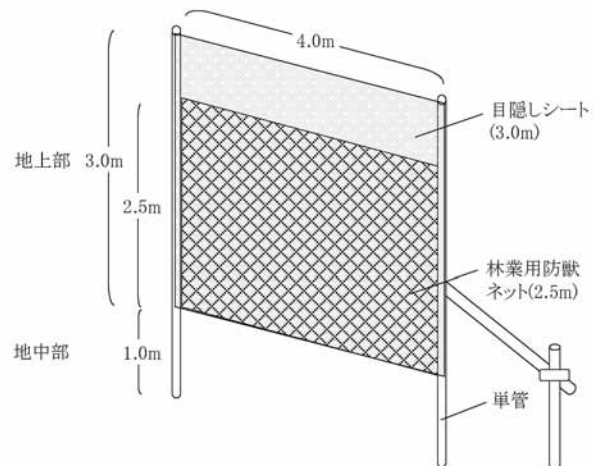
野生鳥獣対策事業
アライグマの駆除をする。
72万円
エゾシカの駆除を試験的に囲いを行なう。
219万円

経営体育成事業（農業）
農業経営体へ助成を行う。
2579万円

囲いわなの概略図



平面図（全周 100m 程度）



側面図（高さ 3m 程度）

交流促進センター整備事業

こぶしの湯あつまのボイラーを改修する。

670万円

緊急雇用創出推進事業

イベント等の企画及び、特産加工品の販売及び販路開拓を行う業務を、あつまスタンプ会に委託し、2人を雇用する。

945万円

地域活性化商品券事業

10%割引商品券を発行する事業への助成を行う。

1132万円

新ビジネスモデル創出事業

地域おこし協力隊（特産品開発支援員）活動拠点の設備・備品を整備する。

415万円

新町富里線道路整備事業

交通安全対策のため一部切土する。

420万円

民間賃貸共同住宅等建設促進事業

町内に賃貸住宅を建設する方に、予算の範囲内（1棟の上限720万円）で助成する。

1440万円

防災無線整備事業

防災無線の厚真局（役場、農協、消防）の設備及び、厚真局内1900世帯の戸別受信機を更新する。

1億6140万円

上厚真小学校屋上防水改修工事

2470万円

特別職・教育長・一般職給与関係

△1941万円

※特別会計分を含む。

公共施設等の便所改修

（洋便器等に改修）

総合福祉センター、スポーツセンター、スタードーム、青少年センター、庁舎別館、中央小学校、上厚真小学校、厚真中学校

934万円

主な質疑

地域活性化商品券

問 事業者の実情を把握して展開してもよかったのでは。

産業経済課参事

今後、組織する商店街活性化委員会等の中で協議し、新たな商店街の活性化に向けた案を作り出していきたい。

新ビジネスモデル創出事業

問 地域おこし協力隊の協力を得ながら特産品を開発するのか。

地域おこし協力隊は、永続的に展開するのか。

町内の空き店舗の利用のめどがついた、との話であったがどの地域か。

産業経済課参事

地域おこし協力隊の特産品開発支援員は、町内で独立・起業を目指す方の技術の修得、人材育成を目的として委嘱している。

永続的な事業展開については、町おこしにつ

て必要と判断したときに、さらに委嘱する。

空き店舗のめどがついたのは、本郷地区である。

民間賃貸住宅等建設促進事業

問 町内に移住して町外へ職を求める方などに、通勤手当の助成制度を検討するなど、多面から協議するべきではなかったか。

建設課長

町内全体的に住宅が不足している。移住者の住宅確保も必要という観点から提案させていただいた。

上厚真柏土地画整理事業

問 区画整理は乱開発を防ぐために、インフラ整備をすることが始まりだったと思うが、なぜ（土地の）面工事が必要になったのか。

まちづくり推進課参事

区画整理事業は、地権者から土地を提供していただき、保留地処分金という形で事業費に充てるこ

とになっている。

これを地権者に還元するという意味もあり、宅地についても事業の中で併せて整備することになる。

討論

反対

木本議員

今回の補正予算の中には、本町の実情を把握していない事業が見られる。

拙速な議案提出は、慎重な議論を省いていると思われる。

苦渋の選択ではあるが、反対する。

反対

海沼議員

上厚真市街地宅地整備事業の予算が、当初の計画よりも増えているように思われる。

「議決に責任を持たないと議会ではない」、という考えから、今回は反対する。

賛成

下司議員

国からの要請による職員の給与削減によつて、地方交付税の減額があった。その分（事業費の減額分）を取り返すべく工夫して予算化されたことには賛同できる。給与削減の部分は（反対であるが）すでに条例制定の議案が可決されたので、この議案については賛成する。

採決

賛成多数で可決

賛成6

了安正秋
大捕孝吉

木戸嘉則
下司義之

井上次男
今村昭一

反対4

吉岡茂樹
木本清登
海沼裕作
三國和江

特別会計補正予算

国民健康保険、介護保

険、簡易水道、公共下水道。

職員の給与削減に伴う減額補正。

全員賛成で可決

給与条例の制定

国の要請に伴い、町職員の給与を平成26年3月まで削減するための条例制定。

町特別職（町長・副町長）の給与の臨時特別に関する条例の制定

賛成多数で可決

賛成9
反対1 下司義之

町教育委員会教育長の給与の臨時特別に関する条例の制定

賛成多数で可決

賛成9
反対1 下司義之

町一般職の職員の給与の臨時特別に関する条例の制定

問 職員の給与削減について、国からの要請内容は。他町では削減率を年齢等により傾斜配分しているようだが、本町で傾斜配分がされなかった理由は。

総務課長

国は、3級から6級が7・7%、1級から2級が4・7%、期末勤勉手当が一律9・7%、管理職手当が10%の減額になっていて、これに準じた削減を要請されている。具体的には、ラスパイレス指数100を超えている部分を削減してほしいという内容である。

本町の場合は、職員組合と合意の上、一律4・6%の減額とした。

賛成多数で可決

賛成8
反対2 吉岡茂樹
下司義之

議会改革に期待する

北海道町村議会議員研修会

厚真町議会議員 了安正秋

6月27日、札幌コンベンションセンターに全道から1、600人余りの町村議会議員が集まり、2人の方の講演を聴いた。

最初は、鳥取県知事を2期8年間務めた改革派知事でも有名な慶應義塾大学教授の片山善博氏で、演題は「議会改革に期待する」というテーマであり、地方分権改革と議会の役割のなかで国や道の権限を地方に移譲する、市町村で予算を使い最終的な決定権は議会にあるということである。

次に大津市のいじめ問題にも触れ、教育委員の承認をしたのは市議会なのだから人選に対しても最終的に議会が責任を負う。そのためにも議会で十分チェックしなければいけない。また議会にはその直接の仕事をしている当事者（現場の人）を呼んで色々な意見を聴く公聴会が大変必要になっていくと述べていた。

2人目はテレビ番組等にも多数出演、政治アナリストとして活動されている伊藤惇夫氏が「今後の政局・政治展望」の演題で安倍政権が今後どのようなようになっていくのか、現在は安定した政権であり、何かを予言することで期待感をもたらしている。前民主党政権が失敗した上で、下駄をはいてスタートしているのも安倍政権が好調維持している要件であると述べている。安倍政権は失敗から何を学んだかという点にも触れ、閣僚や党役員の失言・スキヤンダルに対しても早く対応している。また、お友達人事をやめたことも、一番大事なポストである官房長官の人選も今回最適だと、政権の持続性については、設備投資の拡大、個人の収入（賃金）の増加、将来の安心感をもたらせる事が大事だということも述べていた。

講演の中では、場内を笑いに誘う政治家の裏話なども語っていた。とても分かりやすい講演で機会があれば、また聴きたいと思った。



講師の片山善博氏



報告がされました

総務文教常任委員会

防災訓練事業

問 地域防災マスターは、海岸部の自治会ばかりでなく全町的に要請する必要があるのでは。

総務課主幹 地域防災マスターは少なくとも地域に1人配置したいと考えている。

問 今回震度7を想定した訓練を実施したがその理由は。

兵庫県にある「人と防災未来センター」訓練が直下型の地震を対象にした内容だったので地震を想定したが、津波の想定もできるようにというこ



防災マスターのテキストと腕章

とで浦河沖マグニチュード8・5を想定すると、厚真町の震度は7という想定になった。

まちなか交流館(仮称)

問 この事業は指定管理者制度で事業を継続していく方法ではないか。

町民福祉課長 指定管理者制度での運営委託を考えている。

問 町内出身の障がい者に対して、施設ができた場合の就労に理解を求めたか。

町民福祉課長 対象となる方には、何人かに構想を説明して理解を求めている。

「北海道水資源の保全に関する条例」に係る水資源保全地域の指定状況

問 水資源保全区域図の区域内だけで保全できるか。

まちづくり推進課長 地下水源の保全には、半径1km程度の範囲を水源として指定すべき、というのが学識経験者の意見である。

問 外国資本を規制できないか、外国人が日本の土地を買う目的は。

まちづくり推進課長 昭和54年まで外国人の土地の取得に対する規制の政令があったが、それ以降は(規制する)法律もす



田舎まつりパレードに若者も参加

問 資格取得や大学への推薦入学などの魅力をもつためにPRする必要があると思うが。

厚真高校への支援

具体的ないないが、道の調べでは7割ぐらいが目的不明である。

ある国、友好的な条約等で交流している国とは相互主義でお互い土地を求めることができる。



水資源保全地域

生涯学習課長 学校関係の案内については、7月には完成して発信できるように速やかに取り組みたい。

問 苫小牧東高校と地域キャンパス校として連携しているが、生徒たちが満足する関係が築けているか。今後どのように発展させていくのか。

教育長 キャンパス校の条件としては、週8時間を基本にしながら、あとは学校の調整で必要時間を確保することになっている。昨年は、東高校から2人の先生が、毎週8時間、チームティーチングや個別指導で国語と数学を教えた。

委員会による調査の

産業建設常任委員会

みそ加工施設と販売状況

問 今後、第2、第3の加工品が町の計画として出てくるといふことだが、それに対する考えは。

産業経済課参事 計画では最初に米とハスカップを素材とする特産加工品に取り組むこととしている。あわせて、民間からの希望により肉類の加工品に取り組むとしている。

問 町外で販売される特産品のデリバリー対策は、また、町外の製造業者との連携に関する方針は。

産業経済課参事 町外消



費について今取り組んでいるのは、観光協会によるネット販売や販路拡大、各種イベントへの積極的参加である。

地域おこし協力隊

問 観光支援員と特産品開発支援員の目指すものは。



産業経済課参事 グリーンツーリズム運営協議会と観光協会をマッチングしながら観光振興を図ることが目的である。

問 農業支援員の支援方法について他の町と比較したことがあるか。

産業経済課参事 本年4月に「厚真町新農業者育成協議会」を立ち上げており、今後はこの組織を中心に支援を進める。

集落支援員設置事業

問 平成24年度の具体的な成果は。

産業経済課主幹 集落アドバイザーは、2人体制で週3日活動していた。活動内容は、新規地域おこし協力隊2人の農業体験の調整を主体として、地域を巡回し就農地や空家の調査、情報収集を行った。

産業経済課長 集落支援活動の成果は必ずしも目に見えるものではない。いろいろな件で農家の方

と話し合いがあり調整があるが表に出ない。今後は成果を報告できるようにしたい。

問 集落支援員の概要に「本町の集落を巡回し、集落における課題や要望を調査し、地域活性化の助言」とある。地域の支援策を強化していただきたい。

産業経済課課長 今まで地域おこし協力隊が就農することへの支援が中心であった。本来、地区に入ることは間違いなく、今後は町職員も一緒になって地区に入り（集落支援を）進めたい。

と、今年の作況状況を現地調査



宇隆地区旧油田抗井作業道新設工事 及び油水管理状況（宇隆）

昭和初期に掘削された石油抗の跡からは、
今も油が染み出していて、対策は欠かせ
ない。



京町公園整備事業（京町）

新たに設置された楽しい遊具



交流促進センター（こぶしの湯
あつま）客室改修工事（本郷）
和室から洋室に変更になり、明る
く広くなった山側の客室



7月10日に平成24年度に予算化された事業の確認
と、農作物の作況状況を確認する町内行政視察を
行いました。

午前9時30分に役場を出発し、朝日の古民家へ。



古民家視察（朝日 畑島さん宅）

明治42年頃建設された越中造民家で枠の内造
りの説明を受けた。この民家は解体、移築さ
れて、町の名所として活用される予定である。



発掘調査事業：ショロマ（幌内）

上幌内小学校跡地からも貴重な埋蔵文化財が多数発
見されている。



水稻生育状況（宇隆 石橋公昭さんの水 田）

37年ぶりに水稻試験栽培ほ場が変更になった。
説明は、農業改良普及センターの、植村さん
（右）、村さん（左）

平成24年度予算の行政効果



フォーラムビレッジ宅地造成工事（豊沢）

宅地内の小川に沿って設置された遊歩道（森の小道 508m）は、森林浴するのに絶好。地域コミュニティの場にもなっている。



上厚真小学校太陽光発電施設工事（厚和）
授業での活用について熱心に説明していただいた、油谷校長先生



畑作物生育状況（共和）

農業改良普及センターの植村さんの作況状況説明



海岸1号線道路整備事業（浜厚真）

浜へ延びる海岸1号線の整備状況を確認

（改良 476 m、舗装 463 m）



浜厚真本線道路整備事業（浜厚真）

臨港大橋から臨港道路の間（舗装 275 m）



橋梁長寿命化補修工事（浜厚真）

臨港大橋の桁塗装替の状況を確認

午前中はあいにくの雨となりましたが、午後4時30分までに予定の12カ所全てを視察し、平成24年度予算が適正に執行されていることを確認しました。
作況状況は、生育の遅れているもの、早いものがあり、相対的には大きな誤差が無いということです。

平成25年度に予定した施策をピックアップ

環境

資源物リサイクル推進事業 335万円
古着、古布、小型電子・電気機器等を回収してリサイクルを推進。家庭ごみの減量化を図る。

道路

新町フォーラム線道路整備事業 6690万円
新町団地とフォーラムビレッジを結ぶ道路を整備する。
改良延長 400m
幅員 車道部 8m 歩道部 2・5m
設計測量 1000m

公園

京町公園施設整備事業 1100万円
新たに児童用コンビネーション遊具を1基設置する。
新町公園施設整備事業 3260万円
バーベキューコーナー、コンビネーション遊具を設置する。

水道

統合簡易水道事業 7億316万円
厚真地区と上厚真地区簡易水道を統合し、水源を厚幌ダムに求めて水道未普及地域の解消を図り、将来の水需要の増加に対応するため、水道施設を整備する。
・配水管布設（東和、富里地区）4480m
・取水施設建設工事
・沈砂池建設工事
・実施設計委託料
・ダム負担金
・用地費
・事務費

住宅・宅地

安全・安心省エネ住宅推進事業 820万円
既存住宅の耐震改修、太陽光発電システム設備、ペレットストーブ購入、住宅LED照明器具等購入、住宅リフォーム推進に助成する。
子育て支援住宅建設事業 1001万円
上厚真柏区土地区画整理区域内に、町外から子育て世代家族の移住を促進するための住宅を建設する設計費等。

古民家

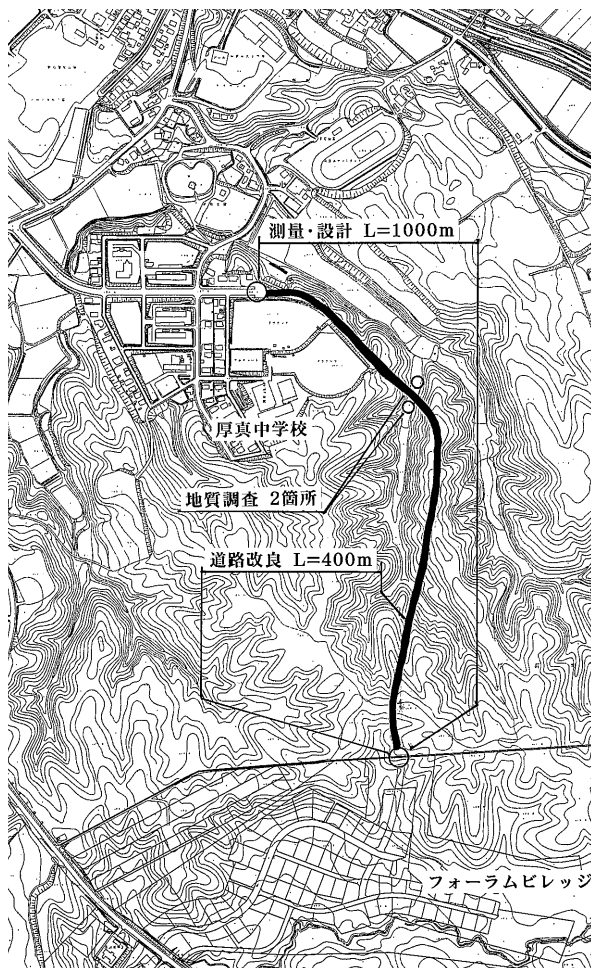
古民家再生推進事業 622万円
町内の歴史遺産である古民家を再生し、交流・移住推進のための利活用を図る。



道内では貴重な粋の内造

林業

森林整備加速化・林業再生事業 3672万円
森林と路網の整備を一体的に推進する。



新町フォーラム線は平成28年度全線開通予定

農業

穀物乾燥調製貯蔵施設機器改修事業 6007万円

平成13年稼働した、たんとうまいステーションの設備を修繕・更新する。

酪農緊急経営安定対策事業 182万円

・乳用牛優良雌牛確保対策補助金

繁殖牛に雌が誕生する割合の高い精液を使用することで、確実に現実より高い確率で雌子牛を確保する。

・人工授精技術料補助

繁殖管理に必要な人工授精技術料を支援する。

和牛緊急経営安定対策事業 850万円

繁殖雌牛を導入、保留する和牛農家に定額補助する。

農業後継者総合育成対策事業 1019万円

・新規就農推進事業

・新規担い手夢基金利子助成事業

・新規就農者・農家後継者農業施設等補助事業

・農業研修生受入経費助成事業

農産物ブランド化推進事業 175万円

ハスカップの品種「あつまみらい」と「ゆうしげ」の2品種を厚真ブランドとして推進を図るため、苗木の購入費を補助する。

雇用創出事業 2298万円

事務系臨時職員7人、公園管理等5人、外部委託事業2人を雇用する。

緊急雇用創出推進事業 694万円

宅配サービス等支援事業（町商工会へ委託）2人、タウンセールス推進事業（キャラクターの活用）1人を雇用する。

こぶしの湯あつま

交流促進センター運営事業 3419万円

こぶしの湯あつま運営のための、棟あつまスタンプ会への指定管理料。

交流促進センター整備事業 951万円

老朽化した設備の改善、利用者の満足度向上のための設備、備品の購入をする。

町のPR

情報発信事業 288万円

効果的な情報発信を総合的に展開する。

観光イベント支援事業 964万円

田舎まつり、海浜まつり、あつま国際3本引き大会、ランタン祭り、スターフェスタへの補助

福祉

重度心身障害児等通院交通費助成事業 24万円

障がい児の通院交通費を助成をする。

健康

住民健診事業 1433万円

各種健康診断を実施する。

特定健康診断 666万円

メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍を減少させることを目的に検査をする。

教育支援

放課後子ども教室開催事業 655万円

小学生を対象に、放課後や土曜日、長期休業中に、自然体験や集団遊び、スポーツなどを通して、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する

放課後子ども教室は、2年目となる。

児童会館整備事業 720万円

児童会館の一部を改造し、放課後子ども教室の拠点とするとともに、学童保育との連携を図る。

子育て

子育て支援保育料還元事業 247万円

保護者が負担した保育料の1割を商品券で還元する。

子育て支援医療費還元事業 379万円

保護者が負担した医療費の自己負担分を商品券で還元する。

交通

福祉バス運行等事業 641万円

高齢者が利用するあつまバスの乗車料軽減を図る。



老朽化が目立ち始めた、町交流促進センター（こぶしの湯あつま）

どうなった

今回、「あの質問はどうなった」と題して、一般質問の提言などがその後どうなったか、お知らせします。

【平成24年 1 定（3 月）】

町育英資金の返還期間延長

返還期間を長くすることはできないか。

答 弁

借り手の意向を調査しながら検討する。

どうなった

平成24年度新規貸付者にアンケート調査を行った結果、現状でいいという回答を得た。
平成25年度もアンケート調査を行う。

【平成24年 1 定（3 月）】

町ホームページの改善

住民にとって必要な情報がすぐ取れる状況にない、改善は。

答 弁

現在のホームページは古くなったので、できるだけ早い時期に改善したい。

どうなった

平成25年 3 月28日より、リニューアルしたページを公開。
今後も使いやすくなるよう改善する。

【平成24年 3 定（9 月）】

町イメージキャラクター

町のイメージキャラクターを立ち上げ、PR 活動できないか。

答 弁

町の知名度を上げるため、総合的なプロデュースをする部署を4月に用意し体制を整えて検討してきた。
イメージキャラクターを作ることも必要と考え今回予算計上した。

どうなった

平成24年11月 1 日に公募を開始し、763 件の応募があった。
町民による投票によりデザインを決定。ネーミングも公募により「あつまるくん」と決定し、田舎まつりで発表した。

みんなの町政です 議会を傍聴してみませんか

町議会は、町の予算や身近な問題について話し合う、大切な会議の場です。あなたも議会を傍聴してみませんか。

◎次の定例会は9月中旬の予定です。

◎日程など議会の傍聴に関するお問い合わせは、
TEL 27 - 2485 議会事務局までお気軽にどうぞ。



あの質問は

【平成23年 3 定（9 月）】

富野・軽舞小学校跡地の利用

富野・軽舞小学校跡地をどのように活用するのか。

答 弁

富野小学校跡地は、子どもたちの放課後の充実を図る施設として活用したい。

軽舞小学校跡地は、郷土資料・保存展示施設として検討中。

どうなった

富野小学校跡地は、現在活用されていないが、本年 4 月に規制は大幅に緩和されたので、町検討委員会で検討中である。軽舞小学校跡地は、埋蔵文化財の整理事務所として活用している。

【平成24年 1 定（3 月）】

シカ肉の有効活用

シカ肉活用のための処理・加工場は。

答 弁

胆振東部3町で平成22年度に 6500 頭ほど捕獲し、広域連携での特産品化も不可能ではない。近隣町との連携協議を早急に始めたい。

どうなった

いちど近隣町に打診をしたが協議はしていない。現在、捕獲したシカは加工業者に引き取りを依頼中である。今後は、町内ハンターの協力を得ながら、効率的な捕獲と有効活用を考える。

【平成24年 1 定（3 月）】

町育英資金の早期貸付

貸付開始を早くするために、申請書類の見直しを。

答 弁

町民税の賦課が 6 月になることや、最終的に 4 月にならないと進路が決まらないので、5 月か 6 月にならないと決定できないが、所得の確認方法については内部で検討する。

どうなった

関係書類については、日本学生支援機構の貸付に準じて提出を求めている。貸付を早くすることの検討はされていない。





井上次男 議員

一般質問

ここが聞きたい

職員の再任用

再任用制度の実施は

答 しかるべき時期に条例提案したい

問 平成25年度に60歳定年退職となる職員から、退職共済年金の報酬比例部分の支給年齢が段階的に65歳へ引き上げられる。無収入期間が発生しないよう（雇用と年金の接続を）図る必要がある。任命権者は、希望する者に再任用するものとの方針が3月26日に閣議決定された。

町長 本町においても、年金制度の改革に関連した職員の雇用と年金の接続については、理事者として責任を果たさなければ。

町としても再任用制度を国家公務員に準じるであろうが、その実施方法は。

ばならないと考えている。制度設計に当たっては、退職職員の能力を十分に活用すること、公務の効率化的な運用を図りつつ、新規採用の確保と組織の活力を維持し、しかるべき時期に条例提案したいと考えている。

簡易水道事業

新規浄水場に小水力発電を

答 地形・施設の配置上難しい



浄水場予定地（富里）

町長 水道用水を利用し発電するには、落差（水頭差）と一定の流量・流速が必要である。

本町では、取水施設より原水を圧送で浄水場に導水するため、発電設備にはポンプ容量（揚程）を計画より大きくする必要があり、本来の目的を阻害することになる。排水量が不安定のため発電自体が困難と考える。

その他の質問

○風疹・麻疹（はしか）

問 予防接種に助成をできないか。

答 今定例会に補正予算を計上しており、助成したいと考えている。

問 環境省は再生可能エネルギー等の導入の推進基金を利用し、東日本大震災や原発事故を契機に、再生可能エネルギーを利用した防災拠点の整備事業等に支援補助しており、道内では、すでにこの補助金を活用している浄水場もある。

新規浄水場（富里）に水道水を利用した小水力発電設備を設置し、施設内の電気料金を節減できないか。



下司義之 議員

厚真への乗り継ぎがない16時18分着のJR



一般質問

ここが聞きたい

公共交通

早来駅の乗継を改善できないか

答 あつまバスに要請している

問 現在、JR早来駅で、苦小牧から厚真へ帰ってくる時、JRからバスへの乗継が4分から11分間である。16時18分着のJRに関して、バスの発車が16時13分であり、JRが到着する前にバスが発車してしまう。到着と発車が逆転する、乗継に4分間しかない。このような不便の解消

町長 16時台のJRは、昨年（平成24年）10月27日のダイヤ改正により、早来駅の到着が早くなり、あつまバスとの接続がなくなった。（現在）あつまバスに調整できないか要請している。

情報発信事業

落選キャラクターを活用しては

答 町民の意向も踏まえ考えたい

町長 町の公式キャラクターにたくさん応募をいただき、あらためてありがとうございます。公式イメージキャラクターとしては、今回当選した作品やこぶしちゃんを使っていきたいと考えているが、トランプなどであれば（キャラクターが）たくさんあった方がいいと思う。しかし、著作権などの関係もあるので、町民の意向なども含めて今後も考えていきたい。

問 町が募集したイメージキャラクターには763件の応募があり、最終選考に残った48作品で選挙を行った結果、作品番号41が当選した。落選した中にもいい作品があり、これを活用しないのはもったいない。

そこで提案です。当選したキャラクターも入れて48、それにこぶしちゃんも含めてトランプやカルタなどを作ってはどうか。

その他の質問

○交通弱者対策

問 日曜、祝日のタクシー運休対策は。

町長 十分に検討して協議をしなければならない。

○図書室運営

問 図書室運営の方針は。
教育長 読書活動全体の底上げをするような取り組みを進めたい。



吉岡茂樹 議員

農業振興

農業振興計画の 達成状況は

答 検討段階に入っていない項目が14ある



一般質問

ここが聞きたい

問 第6次農業振興計画は、本年度で第4期目を迎えているが、相対的な過去3カ年の計画・推進は、各農業関係団体が分担している。主体的には、町農業振興協議会が取り進めていくことになるが、同協議会の会長は町長であり、厚真町農業の将来像実現のためにリーダーシップをとるべきである。

町長 当計画は、毎年度関係機関の役割分担をもとに、検証作業を実施している。総括的には、町農業振興協議会が審議しており、98項目の進捗状況は、「実施中」が66項目、「既に協議が進んでいる」が18項目、「検討段階に入っていない」が14項目ある。年次別行程表でも12項目中「計画通り」が9項目、「遅れている」が3項目ある。

問 上小通学路で、道々鵜川厚真線より校舎までの一部が非常に狭い。登下校時には徒歩で通学する生徒やマイクロバスの通過、自家用車での送迎などで混雑している。また、災害時には同校が厚南地区7自治会の緊急避難施設として指定されていることもあり、



上小への道路は一本で、車一台の幅しかない。
拡幅できそうな道路脇(下)



教育長 現状の通学路は幅員5・5m(内歩道1・5m)で、登下校の際に学校敷地内へ入る車両から児童の安全管理を行っており、子供達も先生の指導のもと交通マナーを勉強する道路となっている。

町長 上小は、災害時の拠点避難施設であり、避難に支障の無い十分な幅員の車道と歩道が必要である。

万が一の事態に備えた迂回路も必要であると思っている。

通学路の拡幅は、立地条件の制約があり、歩道などの部分的な拡幅で対応できるかなど可能性について調査検討する。

災害時などの迂回路は、実現のため土地所有者の協力を得ながら進める。

通学路対策

上小通学路の拡張と改修、災害時の迂回路は

答 通学路の拡幅を検討、迂回路も進める

幅員拡張、歩道のロードヒーティングなどの改修、及び迂回路新設の必要性について伺いたい。

事の際は、歩道のポールを外して相互通行により、学校と保護者が協力して児童の安全を確保している。

議会及び議員の活動報告

	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日
	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	曜
							町現金出納例月検査・土地開発公社理事会	産業建設常任委員会	総務文教常任委員会				ソーラー発電所建設工事安全祈願祭	厚真町自警団連合会総会	厚真神社春季大祭・T P P 協定対策連絡会議	安平・厚真行政事務組合現金出納例月検査			第1回臨時会・全員協議会・議員協議会	防犯協会理事会・総会	とまこまい広域農業協同組合通常総代会	北海道厚真高等学校入学式	厚真中央小学校入学式	上厚真小学校入学式・厚真中学校入学式		交通安全指導員会定期総会	議会広報特別委員会・厚南中学校入学式	転入教職員歓迎式	議会運営委員会		4月曜

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	曜
	苫小牧地方総合開 発期成会総会			定期監査（保育所 監査）		厚真中学校体育大 会	町現金出納例月検 査			管内町村等監査委 員協議会定期総会					管内町村議会議長 会定期総会 商工会通常総会	安平・厚真行政事 務組合現金出納例 月検査							厚真ダム水神宮取 水式							5 月	

	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日
	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	曜
	管内身障者スポーツ大会		第2回臨時会・安平・厚真行政事務組合議会臨時会・胆振東部消防組合議会臨時会	北海道町村議会議員研修会	定期監査（工事監査）・新十津川町議会視察来町	議会広報特別委員会・宮城県川崎町議会視察来町・胆振東部日高西部衛生組合議会臨時会	定期監査（工事監査） T P Pについて今一度考える地域学習会		上厚真連合大運動会	町現金出納例月検査			議会広報特別委員会	安平・厚真行政事務組合現金出納例月検査	田舎まつり本祭・豊稗祈願祭・植樹祭	田舎まつり前夜祭					第2回定例会・議員協議会		厚真中央小学校大運動会	苫小牧厚真会総会・懇親会	あつまスタンプ会定期株主総会	北海道町村議会議長会定期総会	交通安全協会定期総会・議会運営委員会 議会広報特別委員会		厚南中学校運動会・前沢牛まつり（2日）	6月曜	

元気なスポーツ少年団⑨

厚真少年サッカークラブ(厚真FCキッカーズ)



指導者

蔵重 瑞さん

現在、保育園年長から6年生まで、21名でトレーニング、試合に取り組んでいます。サッカーの技術はもちろん、良い判断ができる選手を、日本代表を目指して頑張っています。普段の生活でも元気に挨拶することやルールを守ること、仲間を大切に思うこと、感謝することを通してサッカーを通じて学んでいます。サッカーは楽しいですよ。

いつでも練習の体験を受けていますので、気軽に参加してください。練習は毎週火・金曜日の午後5時から7時まで、表町公園芝グラウンドにて行っております(雨天時はスタードーム)。

農業支援員

地域の話題⑨



協力により、農業支援員としての活動を続けながら農業研修を経て、今年の春には待望の農地2・3haを賃貸することができました。

今は妻と2人で自立に向けほうれん草ハウス700坪建てが主ですが、農家になるための準備はたくさんの方の工程があり、予想以上に時間が掛かり忙しい毎日です。地域の皆様に支えられながら、時には子供たちの手も借りながら充実した日々を過ごしています。

大自然の中での生活にあこがれて、厚真町の農業支援員として埼玉県から平成23年8月に家族4人で移住してきた安達博司さん、もうすぐ2年になります。

農業を始めることは家族にとって大きな冒険でしたが、町内の方々と地域の皆さんのご支援とい



安達さんご家族

